

メッセージ 6
とりなしの祈り

聖書：ヘブル7:25. ローマ8:26-27, 34. 使徒12:5. コロサイ1:9. 4:2

I. キリストは彼の天の務めにおいてとりなしています。わたしたちは、彼のとりなしに応答する必要があります——ヘブル7:25. ローマ8:34. コロサイ3:1-2:

A. ローマ第8章34節において、キリストはわたしたちのためにとりなしていますが、それはわたしたちが栄光化されるためです(17, 30節)。ヘブル第7章25節において、キリストはわたしたちのためにとりなしていますが、それはわたしたちが極みまで救われるためです。極みまで救われることは、栄光化されることと等しいです。

B. キリストは、メルキゼデクの位によるわたしたちの大祭司であって、わたしたちのためにとりなしています——5:10. 7:24-26:

1. キリストは、わたしたちのために死に、復活し、今や天にいて、わたしたちのためにとりなし、わたしたちを顧みています。神は彼を立てて、わたしたちを顧みます。彼は今、わたしたちのためにとりなすことによって、わたしたちを顧みています——ローマ8:34。

2. 主はわたしたちのためにとりなす方として、わたしたちを極みまで救うことができます。すなわち、全体的に、すべて、完全に、いつまでも、永遠に、最後まで救うことができます——ヘブル7:25。

3. キリストは、わたしたちのためにとりなすことによって、わたしたちの案件を請け負います。彼はわたしたちのために神の御前に現れ、わたしたちのために祈ります。それはわたしたちが救われて、神の永遠の定められた御旨へと完全にもたらされるためです——Iヨハネ2:1. ヘブル9:24. エペソ1:11. 3:11. IIテモテ1:9。

C. キリストのとりなしは、わたしたちの応答を必要とします。わたしたちは地上で、キリストの天の務めのとりなしの反映となって、とりなすキリストの祈りを祈る必要があります——ローマ8:26-27, 34。

II. わたしたちはキリストの天のとりなしに応答するために、金の香壇の意義を知る必要があります——出30:1-10:

A. 香壇は、キリストの祈りの予表ではなく、彼のパーソンの予表です。香壇は、祈るキリスト、とりなすキリストを表徴します——ヘブル7:25。

B. 香壇は、とりなす方としてのキリストが、神と神の民との間の関係を維

持することを表徴します。このようなとりなすキリストがいなければ、神とわたしたちとの間の正しい関係は存在することができず、維持されることもできません——出30:1-6. ヘブル7:25. ローマ8:34. Iヨハネ2:1。

C. 今日、とりなす者は、キリストご自身だけではなく、キリストと彼のからだです。わたしたちはキリストのからだの肢体として、キリストのとりなす生活にあずかって、金の香壇としての彼の中で祈るべきです——ローマ8:26-27, 34. エペソ6:18-19. コロサイ1:9. 4:3, 12:

1. キリストの復活と昇天の後、個人のキリストは団体のキリストとなりました。こういうわけで、今日、神の御前では、個人のキリストがとりなしているだけでなく、団体のキリスト、すなわち、かしらとからだもとりなしています——Iコリント12:12. 使徒12:5, 12。

2. かしらであるキリストは、天でとりなしています。からだである召会は、地上でとりなしています——ローマ8:34. ヘブル7:25. 使徒12:5, 12。

3. わたしたちは、キリストの肢体として、からだ・キリストの一部として、キリストのとりなしの務めにおいて彼と協力し、わたしたちのとりなしの祈りにおいて彼のとりなしを遂行します——ローマ8:26-27, 34. ヘブル7:25. Iテモテ2:1。

III. **とりなす霊は、わたしたちのためにとりなすことによって、わたしたちを助け、わたしたちに同情し、わたしたちを支え、わたしたちを慰め、わたしたちを保持します——ローマ8:26-27:**

A. わたしたちに内住するその霊は、わたしたちの弱さを助けてくださいます。ローマ第8章26節で述べられている弱さは、特に祈りにおける弱さを指しています:

1. わたしたちは、神の權益と神聖な事柄において弱く、神の願っている祈りが何であるかを知らないのです、内住の霊がわたしたちの中で働いて、祈りにおけるわたしたちの弱さを助けてくださいます。

2. 「同じように」、その霊もわたしたちを担って助けてくださいます。わたしたちがどうであろうと、彼もそのようであります——26節前半。

3. その霊は、あらゆる状況においてわたしたちを助けてくださいます。なぜなら、彼は、わたしたちの必要、問題、短所を知っているからです。そして彼はわたしたちに同情し、わたしたちを保持し、わたしたちを支えます。

B. その霊は、わたしたちの様にしたがって、うめきをもってわたしたちの

ためにとりなします——26節後半：

1. 一見すると、これはわたしたちのうめきです。しかし、わたしたちのうめきの中に、その霊のうめきがあります。
 2. わたしたちが、わたしたちの霊の内側深くからうめいているとき、わたしたちの霊に内住するその霊は、わたしたちのうめきと共に、わたしたちのためにとりなします。それはおもに、わたしたちが命における造り変えを持ち、命において成長し、円熟へと至るためです。
- C. その霊が、わたしたちの弱さを助け、またわたしたちのためにとりなすことによって、わたしたちの中で働くとき、彼はわたしたちの祈りの中で、神にしたがった彼の思いをわたしたちの中に注入します——27節：
1. エペソ第4章23節は、思いの霊について語っていますが、ローマ第8章27節は、その霊の思いについて語っています。思いの霊は、新しくされるためです。その霊の思いは、とりなすためです。
 2. その霊の思いは、わたしたちの思いとミングリングされています。わたしたちの思いは霊に付けられており、わたしたちの思いとその霊の思いを一とならせています——6, 27節。

IV. 使徒第12章には、召会のとりの祈りがあります。コロサイ第1章9節から11節には、使徒パウロのとりの祈りがあります：

- A. ペテロが獄にいたとき、「召会は、彼のために熱心に祈りを神にささげていた」——使徒12:5：
1. 背後では、霊の勢力の戦い、すなわち、神と彼の敵サタンとの間の戦いがありました——4-6節。
 2. 召会は祈りによって、神と共に、あの悪しき者サタンに対して戦いました——5-23節。
- B. パウロは、聖徒たちが「あらゆる霊的知恵と理解力において、神のみこころを知る全き知識で満たされ」るようにと祈りました——コロサイ1:9：
1. ここでの神のみこころは、わたしたちの分け前としてのすべてを含むキリストと関係があります——12節。
 2. 神のみこころは深遠であり、わたしたちがこのすべてを含むキリストを知り、経験し、生きることと関連があります。わたしたちに対する神のみこころは、わたしたちがキリストを知り、キリストを経験し、キリストを享受し、キリストを生き、キリストをわたしたちの命またパーソンとすることです——ピリピ3:7-10. 1:21前半. コロサイ3:4. エペソ3:17前半。

V. わたしたちは、上にあるものを求めることによって、またわたしたちの思いを上にあるものに置くことによって、うまずたゆまず祈り、キリストのとりなしに応答しなければなりません——コロサイ4:2. 3:1-2。

©2009 *Living Stream Ministry*